



2026年6月23日

各 位

会社名	ポ ー ル ト ウ ウ イ ン ホールディングス株式会社
代表者名	代表取締役社長 橋 鉄 平 (コード番号：3657 東証プライム)
問合せ先	取締役 CFO 山 内 城 治 (Email : ir@ptw.inc)

## 当社連結子会社によるパートナーシップ契約締結に関するお知らせ ～一気通貫の AI 導入支援により持続的に機能する業務プロセスを構築～

当社の連結子会社である株式会社 SynX（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：西 潤一郎、以下「SynX」）は、AI 駆動型ソフトウェア事業承継プラットフォームを展開する株式会社マイクロニティ（本社：東京都渋谷区、代表取締役：山崎 祐一郎、以下「マイクロニティ」）とパートナーシップ契約（以下「本契約」）を締結いたしましたので、お知らせいたします。

近年、業務効率化及びデジタル化の推進を目的として、多くの企業において各種ツールの導入が進められております。しかしながら、導入後における現場での活用不足や、部門単位での運用の分断により、全社的な進捗管理及び状況把握が十分に行われていないといった課題が顕在化しております。

SynX は、クラウド・AI・IoT 等の最先端技術を駆使し、企業の DX 推進を総合的に支援する IT ソリューションを提供しております。業務プロセス全体を俯瞰した上で、業務設計からツール実装、運用定着までを一体的に支援し、持続的に機能する業務プロセスの構築に取り組んでおります。

マイクロニティは、承継したソフトウェア事業に AI エージェントを実装することで、従来ヒトに依存していた業務の自律化を実現し、次世代の事業体への転換を推進しています。本契約の締結により、SynX はマイクロニティが提供する業務改善プラットフォーム「mfloow」の提供及び導入・定着支援を開始いたします。mfloow は、AI を活用して業務の標準化及び属人化の排除を図るものであり、SynX が設計・構築から運用定着まで一括して担うことで、顧客企業における生産性の向上及びヒトが本来注力すべき業務に集中できる環境づくりを支援してまいります。

ゲームデバッグにおいて国内トップクラスのシェアを有する当社グループは、非ゲームのソフトウェアテストを中心とした国内 Tech 分野を成長領域の 1 つに位置付けております。本件が当社の業績に与える影響は、現時点では軽微であると考えておりますが、引き続き収益性の回復・再成長を最優先課題に、持続的な企業価値の向上を図ってまいります。

本契約の詳細な内容については、下記リンクをご参照ください。

- ・SynX、マイクロニティ社とパートナー契約を締結  
業務改善プラットフォーム「mfloow」の提供・定着支援を開始  
～業務設計から構築・運用定着までを一貫支援し、“使われる業務フロー”を実現～

以 上

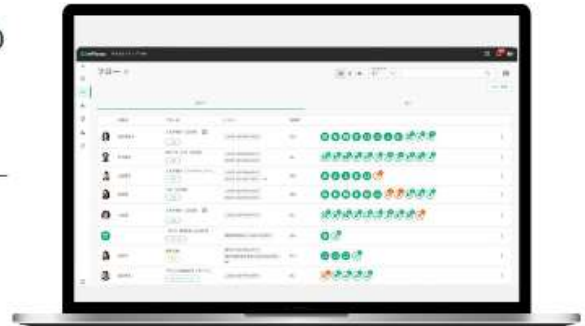
SynX、マイクロニティ社とパートナー契約を締結  
業務改善プラットフォーム「mflood」の提供・定着支援を開始  
～業務設計から構築・運用定着までを一貫支援し、“使われる業務フロー”を実現～

株式会社 SynX（代表取締役：西 潤一郎、本社：東京都千代田区、主要株主：ポールトゥウィンホールディングス 100%、東京証券取引所プライム市場上場〈証券コード：3657〉、以下 SynX）は、業務改善プラットフォーム「mflood（エムフロー）」を提供する株式会社マイクロニティ（代表取締役：山崎 祐一郎、本社：東京都渋谷区）とパートナーシップ契約を締結したことをお知らせします。



業務改善プラットフォーム「mflood」の  
**提供・定着支援を開始**

業務設計から構築・運用定着までを  
**一貫支援**



近年、多くの企業で業務改善や DX 推進を目的としたツール導入が進む一方、「導入したものの、現場で活用されない」「部門ごとに運用が分断され、全体の進捗が見えない」といった課題が増えています。

特に、複数部門や複数担当者が関わる業務プロセスでは、

- ・ 誰が何を担当しているのか分からない
- ・ どこまで進んでいるのか把握できない
- ・ 担当者変更時に業務が属人化する

といった状況が発生しやすく、業務効率や品質低下の要因となっています。

## ■ 背景 | “ツール導入だけ”では業務は改善しない

多くの企業では、業務改善や DX 推進を目的にさまざまなツールが導入されています。一方で、現場への定着不足や部門間連携の分断などにより、期待した効果を十分に得られていないケースも少なくありません。その要因の一つとして、「業務プロセス全体の整理・設計不足」が挙げられます。ツール導入前に、業務フローや役割分担、情報共有の流れを整理し、「誰が・何を・どの順番で行うのか」を明確化することが重要です。

SynX では、単なるツール提供ではなく、“現場で実際に回り続ける業務プロセス”を構築するため、業務設計から運用定着までを一貫して支援しています。特に、「業務設計 → ツール実装 → 定着支援」を一気通貫で提供できる点が、従来のツール導入支援との大きな違いです。

## ■ 「mflow」について

AI を活用して業務の「見える化」から「定着」までを一気通貫で支援する業務改善プラットフォームです。人事やバックオフィス領域で培った「業務プロセスの標準化」のノウハウを全社展開し、あらゆる部門の定型業務を最適化します。AI が現場の「正解の型」を提示することで、経験を問わず誰もが「100 点の仕事」を再現できる組織体験を実現します。

### 主な機能

#### 1. 業務フローの可視化・一元管理

業務プロセスをフローとして整理し、進捗・担当・期限を一覧化。

リスト、ガントチャート、フローチャート形式など、業務に応じた表示方法で管理できます。

#### 2. テンプレート化による業務標準化

業務フローをテンプレート化し、共通手順として利用可能。

担当者変更時でも、同じ品質・同じ流れで業務を遂行できます。

#### 3. 定期・年次業務の自動開始

月次・年次など定期業務をスケジュール設定により自動起動。

対応漏れや期日超過リスクを軽減します。

## ■ SynX が提供する支援内容

### ① 業務分析・プロセス設計

現状業務を整理し、重複作業・非効率工程・部門間分断を可視化。  
現場で無理なく運用できる業務フローを設計します。

### ② mflow 構築・テンプレート実装

設計したフローを mflow へ実装。  
タスク、担当者、運用ルール、マニュアルまで含めて構築します。

### ③ 導入後の定着支援・改善フォロー

導入後も継続的に活用状況を確認し、改善提案や運用支援を実施。  
“導入して終わり”ではなく、現場へ定着するまで伴走します。

## ■ SynX 経由で導入するメリット

SynX では、ツール提供にとどまらず、業務全体の最適化まで含めた支援を行います。

- ・業務フロー整理・可視化支援
- ・自社に合わせたテンプレート設計
- ・実運用に沿ったマニュアル整備
- ・定着支援・改善サポート
- ・他システムとの連携や業務自動化提案

これにより、企業ごとの運用実態に合わせた“現場で機能する業務フロー”の構築を実現します。単なるツール導入ではなく、「業務が回り続ける仕組み」を構築できる点が SynX の強みです。設計・構築・定着までを一括して担うことで、担当者が本来注力すべき業務に集中できる環境づくりを支援します。

## ■ SynX の提供価値

SynX はこれまで、開発・QA・IT インフラ・運用・セキュリティを統合したサービスを提供し、「止まらない IT」の実現を支援してきました。また、バックオフィス領域を含む業務改善・業務設計支援にも取り組み、企業ごとの運用課題に応じた最適化を支援しています。

本パートナーシップにより、mflow を活用した業務改善・業務標準化支援をさらに強化し、

- ・業務プロセスの可視化・標準化
- ・業務負荷の最適化・効率化
- ・システム連携・自動化の設計
- ・継続的な運用改善

を通じて、企業の業務運用全体の最適化を支援します。単なる業務効率化にとどまらず、「人に依存しない仕組みで業務が回る状態」を実現することで、持続可能な組織運営と事業成長に貢献します。本取り組みにより、企業の業務運用そのものを進化させ、継続的な改善が可能な状態の実現を目指します。

## ■ 今後の展開

SynX は本提携を通じて、中堅・中小企業を中心にバックオフィス業務の高度化支援を強化し、業務プロセス改革が求められる領域においても、実効性の高い変革を推進してまいります。

## ■ コメント

株式会社 SynX 代表取締役社長

西 潤一郎

「多くの企業において、バックオフィス業務は重要でありながら、可視化や標準化が十分に進んでいない領域です。本パートナーシップを通じて、mfloow を活用しながら、業務が継続的に回り続ける仕組みを構築し、“人”に依存しない業務基盤の実現を支援してまいります。」

## ■ SynX について

株式会社 SynX は、業務改善・DX 推進・システム開発を通じて、企業の課題解決を支援する IT パートナーです。開発・QA・IT インフラ・セキュリティを一気通貫で提供する「SynX One」を軸に、企業の IT 課題をワンストップで支える体制を整えています。

DX 伴走支援においては、業務整理・可視化から運用設計、改善の定着までを伴走型で支援することを強みとし、単なるシステム導入にとどまらず、“現場で回り続ける仕組みづくり”を実現する DX 支援を推進しています。

URL : <https://www.synx.co.jp/>

## ■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社 SynX

広報担当

Email : [public.relations\\_desk@synx.co.jp](mailto:public.relations_desk@synx.co.jp)